

第72回全国学校給食研究協議大会（北海道大会）実施概要

- 1 趣 旨 学校における食育を推進する上で重要な役割を担う学校給食の在り方について研究協議を行い、併せて学校給食関係者の資質の向上を図る。
- 2 主 題 「生きる力」をはぐくむ食育の推進と学校給食の充実
～ 学校給食ではぐくもう 次代を担う子どもたちの心と体 ～
- 3 主 催 文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、
北海道学校給食研究協議会、全国学校給食会連合会、
公益財団法人北海道学校給食会
- 4 後 援 北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道特別支援学校校長会、
北海道公立学校教頭会、北海道特別支援学校副校長・教頭会、
北海道PTA連合会、北海道学校栄養士協議会、
北海道特別支援学校栄養教諭研究協議会、北海道高等学校給食研究協議会
- 5 期 日 令和3年10月21日（木）・22日（金）
- 6 会 場 【全体会及び分科会】北海道札幌市 ホテルライフオーブ札幌
- 7 開催方法 オンライン開催（見逃し配信：11月1日（月）～12月26日（日））
- 8 参加者総数 道内：447名、道外：783名 計：1,230名

9 概 要

<第1日目>

(1) 文部科学大臣表彰

学校給食の実施に関し、優秀な成果をあげた学校及び共同調理場、特に功績のあった学校給食関係者を表彰。

[学校：12校、共同調理場：1施設、個人：16人、団体：1団体]

※北海道受賞者のみ、文部科学省三木課長から手交。ほか受賞者は大会誌に掲載

【北海道受賞者】

北海道札幌視覚支援学校 元栄養教諭 門 馬 則 子

(2) 文部科学省説明

説 明 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長 三 木 忠 一

内 容 「学校における食育の推進及び学校給食の充実」

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況
- ・ 食育推進基本計画
- ・ 栄養教諭を中核にした食育の推進
- ・ 学校給食における適切な衛生管理
- ・ 学校給食実施基準等の一部改正
- ・ 学校給食費の公会計化

(3) シンポジウム（キーノート・スピーチ形式）

テーマ 「日常生活の食事」に生きる学校給食

～ 教材となる「おいしい」給食の実践と発信 ～

キーノート・スピーチ

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 学校給食調査官 齊 藤 る み
コーディネーター

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 食育調査官 清 久 利 和
シンポジスト

公益財団法人全国学校栄養士協議会 会長	長 島 美保子
北海道札幌市立円山小学校 校長	森 田 智 也
北海道西興部村立西興部小学校 栄養教諭	小 西 千 鶴
北海道PTA連合会 副会長	街 道 美 恵
北海道教育庁学校教育局 指導担当局長	中 澤 美 明

概 要

○ キーノート・スピーチ

【学校給食に求められる役割】

- ・ 学校給食の目的と役割
- ・ 第4次食育推進基本計画において求められる学校給食の役割

【学校給食の現状と課題】

- ・ 教材となるおいしい給食
- ・ 学校給食の発信

○ 論点1：学校給食の役割について

学校給食を通じて、どのような子どもを育成したいかを議論

- ・ 北海道の特徴や課題、日本の置かれている様々な状況。格差社会で貧困率が増加、デジタル化社会などこの時代でどのように子どもたちに生きる力をつけていくか。
- ・ 学校給食(生きた教材)を活用して、体の健康と心の健康と地域を愛する気持ちにつなげ、自分でおいしいものを作って食べられる基礎を養う。
- ・ 食を通じて、学校・家庭・地域等が連携し、思いやりのある、人に感謝のできる子に育てたい。

○ 論点2：学校給食に期待したいこと

学校給食の発信などの課題に対して何ができそうかを議論

- ・ もう一口の幸せ。例えば食器をきれいに、ご飯粒がたくさんついたまま返すような子どもにたくない。
- ・ 栄養教諭の役割として、個に応じた配食、学校給食を通じて自分自身の適量を学ばせること、自己管理能力という視点でとても大切。
- ・ 自立して生きていける大人になる。
- ・ 人間が生きていく上で、最終目標は、自分のためだけに生きるのではなくて、人の役に立つ人間で一生を終えられたかどうか。
- ・ 学校は子どもに知識を与え、栄養教諭はさらに食に関する知識を与え、それをキャッチして活用するのが家庭。情報をキャッチしやすいように、ICTを活用して保護者へ情報発信を積極的に行う。一方的ではなく、双方向の取組が大切。

<第2日目>

(1) 分科会

分科会		会場	参加者数
1	学校経営に食育を位置付け、栄養教諭を中核に全教職員が連携・協働して取り組む食育推進体制の整備・充実	17階 スカイホールサラ	125名
	①学校経営の方針における食育の推進の在り方 ②栄養教諭を中核として全教職員が連携した食育推進体制の在り方 ③家庭や地域と連携・協働した食育の評価の在り方について、協議が行われた。		
2	小学校における学校給食を活用した食育の充実	4階 アニマートⅠ	253名
	①学校給食を活用した食に関する指導の改善及び充実に図るための指導方法の工夫 ②給食の時間における食に関する指導を中心に食育を推進する体制の在り方 ③小学校における食育の充実に図る家庭や地域との効果的な連携の在り方について、協議が行われた。		
3	中学校における学校給食を活用した食育の充実	4階 レガートⅠ	154名
	①学校給食を活用した食に関する指導の改善及び充実に図るための指導方法の工夫 ②給食の時間における食に関する指導を中心に食育を推進する体制の在り方 ③中学校における食育の充実に図る家庭や地域との効果的な連携の在り方について、協議が行われた。		
4	特別支援学校における学校給食を活用した食育の充実	4階 グラーベⅡ	91名
	①児童生徒一人一人の障害や健康等の実態に応じた学校給食の提供と摂食指導の在り方 ②障害のある児童生徒一人一人に応じた学校給食を活用した食に関する指導の進め方 ③食育の充実に目指した家庭や地域との効果的な連携の在り方について、協議が行われた。		
5	社会的課題に対応する学校給食を活用した食育の充実	4階 グラーベⅠ	144名
	①食品ロスの削減に資する学校給食用食品の生産・流通及び納入体制の構築並びに家庭・地域と連携した食育の進め方 ②地場産物・国産食材の活用を資する学校給食用食品の生産・流通及び納入体制の構築並びに調理環境の整備及び献立作成の在り方 ③災害時における学校給食の実施体制の在り方について、協議が行われた。		
6	学校給食における食物アレルギーの対応及び個別の相談指導の充実	4階 レガートⅡ	165名
	①学校給食における食物アレルギー対応方針やマニュアルの策定及び組織的な取組の進め方 ②誤配・誤食等の事故の未然防止に係る方策及び緊急時に備えた研修の進め方 ③個別の相談指導の効果的な進め方について、協議が行われた。		
7	学校給食の調理の工夫と栄養管理の充実	4階 アニマートⅡ	185名
	①学校給食摂取基準に基づき、栄養教諭と学級担任等が連携した栄養管理の在り方 ②食に関する指導の教材として魅力ある美味しい学校給食を提供するための大量調理の工夫 ③学校給食をモデルとして児童生徒の食に関する自己管理能力を育成する家庭・地域との連携の在り方について、協議が行われた。		
8	安全・安心な食品の選定と衛生管理の充実	3階 はなの	113名
	①衛生管理を徹底するための学校給食の施設設備の整備及び運用の在り方 ②安全・安心な食品の選定と関係機関との連携の在り方 ③学校と連携した衛生管理の徹底及び緊急時における対応の在り方について、協議が行われた。		

(2) オリジナル弁当

『どさんこ創造弁当 ～ 歴史から学び、明るい未来へ ～ 』

- ・ 北海道にある食文化を受け継ぐとともに、北海道の豊かな農畜産物、水産物などの食材を使い、SDGsの視点を踏まえながら、子どもたちの生きる明るい未来を「創造」するお弁当を開発。
- ・ 分科会の指導助言者・発表者・会場運営関係者等に提供。
- ・ お弁当のレシピを大会誌に掲載、受付時間や休憩時間等に弁当の紹介プレゼンテーションを配信。

<第1日目・第2日目 共通>

(1) 協賛事業者の広告掲載及びCM配信等（2日間）

協賛事業者（会社・団体） 67社

- ・ 大会誌の広告を掲載。
- ・ 受付時間、休憩時間等に協賛事業者が作成したCMを配信。
- ・ 2日目の分科会会場に背面広告を作成し、発信。

(2) 各管内の取組プレゼン配信（2日間）

空知地区、石狩地区、後志地区、胆振・日高地区、渡島・檜山地区、函館地区、上川地区、留萌地区、宗谷地区、オホーツク地区、十勝地区、釧路地区、根室地区、札幌地区（14地区）

- ・ 各管内の栄養教諭等が作成した学校給食及び食に関する指導の取組を紹介するプレゼンテーションを受付時間、休憩時間等に配信。
- ・ テーマは、地場産物を活用した食育、郷土料理を取り入れた学校給食等、地域の特色を生かした視点で設定。

10 総括

- 全体会のシンポジウムでは、キーノート・スピーチの講師から、テーマに基づく提言を受けて、学校の管理職、栄養教諭、保護者、行政の立場のシンポジストを交えて、2つの論点について議論した。学校給食を通じてどういう子どもを育成したいのか、学校給食の発信などの課題に対して何ができそうかについて、課題等を共有しながら、コーディネーターの巧みな進行により、シンポジストの本音を引き出すことによって、学校給食をいかに日常生活の実践に生かすことができるか、子どもたちの食に関する自己管理能力を育成することができたかなど、学校給食の役割や在り方を確認し、参加者とも共通理解を図ることができた。
- 協賛事業者の展示は、オンライン開催であってもCM配信や背面広告等の工夫を提案することにより、学校給食関係の多くの企業から協賛を得ることができ、学校給食や食育に関する効果的な情報発信をすることができた。
- 北海道学校給食研究協議会栄養部会の取組を紹介する配信では、配置数全国一位を誇る栄養教諭等が中心となって、これまで取り組んできた地場産物を活用した食育などを各管内の特色ある活動をベースにまとめ、配信することができた。プレゼンテーションの縮小版を大会誌に掲載したことは、大会の記録として残すことができ、大変好評であった。
- 分科会では、8分科会の全てにおいて、北海道の取組を発表した。全国各地の参加者と「栄養教諭を中核に全教職員が連携・協働して取り組む食育推進体制の整備・充実」「小・中・特別支援学校における学校給食を活用した食育の充実」等、研究主題に基づき実践発表や研究協議が行われ、各県の取組や課題、今後の展望など情報共有することができた。

研究協議では、チャット機能等を活用しながら進行を行った。熱心な協議が展開された分科会もあったが、集合のときのように協議が深まらず、配信元の発表者と指導助言者中心で、協議が難航した分科会もあり、この点についてはオンライン開催による協議の方法などに課題を残した。

今後の各学校における取組の参考になる事例が数多く紹介され、まとめとして指導助言者の講義等もあり、さらには、大会終了後のオンデマンド配信により全ての分科会に参加が可能となり、参加者にとって大変有益であったと考える。
- 本大会は、初めて試みるオンライン開催の良さや課題を引き出すために、予報の発出や事前アンケートの実施により、参加予定者からの要望・意見を取り入れながら、2日間の日程や大会内容を検討し、約2か月に渡る見逃し配信期間を設けるなどを行ったことで、充実した内容のものとなり、全国各地の参加者からの事後アンケートの回答や文部科学省・教育関係者から素晴らしい大会であったとの声をいただいている。本道の参加者にとっても、先進的事例や最新情報を得ることができ、全国の参加者と意見や情報の交流を深めるよい機会となった。

今後は、本大会の成果を生かし、次代を担う子どもたちの心と体を育む、学校給食の役割や在り方について、引き続き学校給食に関わる関係者で共通理解していくとともに、我が国有数の食料供給地域と言われる本道の特色を生かし、安全・安全な学校給食を生きた教材として、学校・家庭・地域が連携・協働した食育の一層の充実に向けて取り組んでいきたい。